

Webページの作成による問題解決的な学習のあり方について

～他者を意識した動機づけや段取り及び自力解決の要素を取り入れた実践をとおして～

1 はじめに

本研究では、中学校技術・家庭科(技術分野)の「情報とコンピュータ」において、HTMLを利用したWebページの作成をとおして、他者を意識した動機づけや段取り及び自力解決の要素を取り入れた学習のあり方を追究した。そして、その授業実践により生徒が学習意欲を高め、確かな知識と技能を身につけると同時に、自力解決をとおして学び方を自ら学ぶ方法を身につけることをねらいとした。

2 研究の概要

先行研究に「中学生になるとものづくりの意欲が低下してくる」というデータがあり、私自身もこれを課題の一つと感じていた。このことから、今までの実践を振り返ると、
のような課題があり、それを解決する方策をWebページの作成(7時間)の指導をとおして研究した。

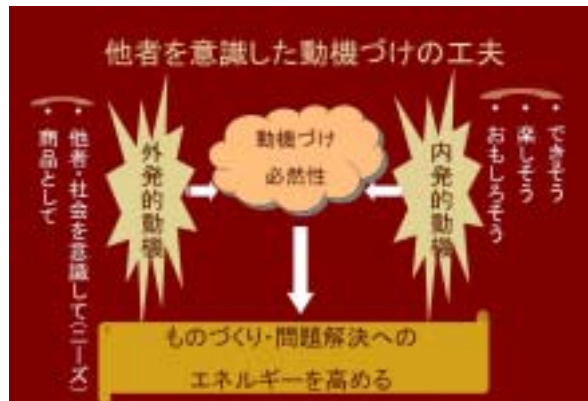
<学習内容>

- 「1. HTML を利用しよう」(1時間)
- 「2. Webページの構想を考えよう」
(2時間)
- 「3. Webページをつくろう」(4時間)

動機づけが弱く、必然性を感じる授業になっていない。

他者を意識した動機づけの導入
(なぜ、何のために作るのか)

生徒が事業所を訪問し、取材を行う。その後事業所から依頼を受けて、Webページを作成し、納品するという状況をつくることで動機づけを行った。



主体的、自律的な学習に対する姿勢を教師が培っていない。

段取り・自力解決の手法の導入
(自ら考えて全てをつくる)

作業ワークシートを毎時間の生徒のつまずきや意識を把握する手だてとして活用した。教師は生徒のつまずきに対して解決方法を指導するのではなく、生徒が自力解決できるように支援した。



3 研究のまとめ

(1) 成果

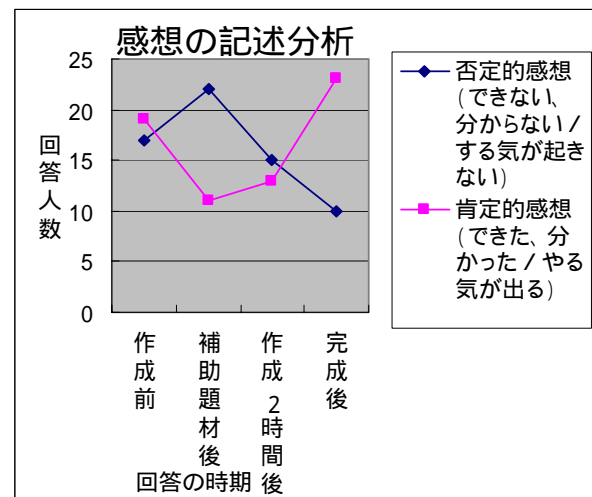
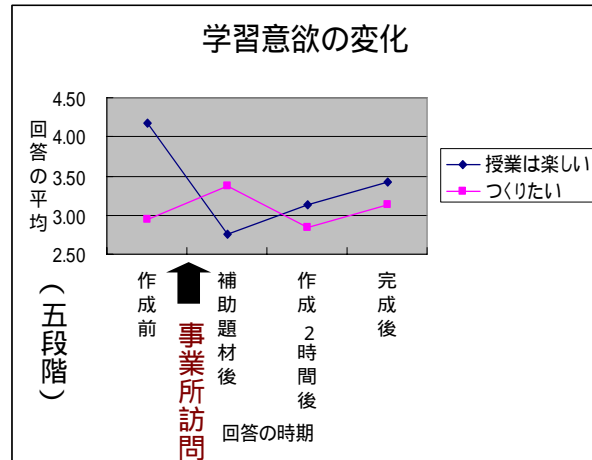
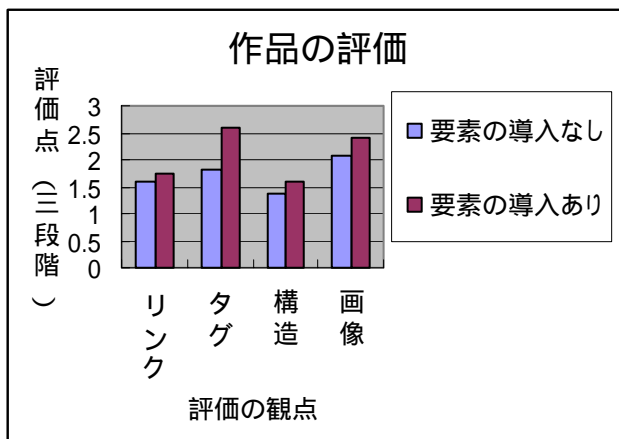
事業所訪問前後にかけて「授業は楽しい」という項目が著しく低下しているにもかかわらず、「つくりたい」という項目は上昇している。これはHTML習得の困難さを超えて、他者を意識した動機づけが有効に働いている証拠と言える。

「授業は楽しい」という項目は、事業所訪問前後で著しく低下した後、学習が進むに従い、上昇している。

「つくりたい」という項目は、作成2時間後にHTML習得の困難さのため一旦低下するが、最終的には上昇する。この上昇は「感想の記述分析」において「できた、わかった、やる気がでた」という感想が作成2時間後著しく上昇していることから、達成感や成就感を持つ生徒が増えたためだと考えられる。このことは段取りや自力解決の手法を導入することは効果があることを示している。

学習が進むにつれて、つまずきを自力解決した生徒も増えている。また、聞き取り調査の結果から一方的に教えられるのではなく、教師からの支援を受け、自分自身で考えながら解決していったことに喜びを感じていることが明らかになっている。教材に対して自力解決ができるようになると教材そのものが生徒の動機づけとなると考えられる。

動機づけや段取り及び自力解決の要素を導入した授業実践の作品は導入しなかったものと比べて、どの観点についても質が高い作品に仕上がっており、従来の指導法と比べて知識と技能がより定着したと言える。



(2) 課題

作成意欲が低下したまま達成感を味わえない生徒もあった。自力解決にかかる時間は個人差があり、しっかり時間を確保するなど指導計画を見直す必要がある。